

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光ビジネス実務総論 Introduction to Tourism Business		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光ホスピタリティフィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ホテル業概論 観光学概論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光学演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斎藤 清	本館2階	火曜日・水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光ビジネスは、21世紀の主要産業となっている。様々な分野への波及効果、経済効果が大きく、観光ビジネスへの期待が増している。観光立国宣言が行われてから、日本人の国内旅行、海外旅行だけでなく、訪日外国人旅行も注目されている。多様な産業の観点から観光ビジネス、観光産業の専門的知識を修得する。				
授業の目標				
①我が国の観光の現状につき、国内旅行・海外旅行・訪日外国人旅行等につき説明できるようにする。 ②観光旅行の実態につき修学旅行や新婚旅行等の旅行形態別に考えることができるようにする。 ③脚光を浴びつつある「ニューツーリズム」につき、その背景と内容を説明できるようにする。 ④世界遺産の意義と課題を説明することができるようにする。 ⑤航空業界の現状と課題を説明することができるようにする。 ⑥観光ビジネスの現場で発生するトラブル事例を説明することができるようにする。				
授業の方法				
毎時間プリントを配布し、講義形式で行なう。観光ビジネスの様々な事例を提示し、課題を考えながら検討する。				
学習の成果（学習成果）				
①観光の基礎的知識を理解し、専門的知識を社会の現場で活かすことができる。 ②日本の観光政策を学び、課題を見つけることができる。 ③国内旅行・海外旅行の新しい企画を創出することができる。 ④訪日外国人旅行に関して新しい魅力と課題を見出すことができる。 ⑤世界遺産の意義と課題を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション（講義の進め方）			
第2回目	我が国における観光の現状（国内観光旅行の現状）			
第3回目	我が国における観光の現状（海外観光旅行の現状）			
第4回目	いろいろな観光旅行の実態（修学旅行・新婚旅行他）			
第5回目	観光地の類型と特質			
第6回目	ニューツーリズム①（エコツーリズム・グリーンツーリズム・ヘリテージツーリズム）			

第7回目	ニューツーリズム②（産業観光・ロングステイ・ヘルスツーリズム・バリアフリー旅行）	
第8回目	世界遺産の意義と課題 レポート課題提示	
第9回目	観光ビジネスの現場①（駅弁を考える他） レポート提出	
第10回目	旅行業トラブル事例研究①（個人情報の取扱い他）	
第11回目	航空業界の現状と課題	
第12回目	観光ビジネスの現場②（JR九州のデザイン戦略他）	
第13回目	旅行業トラブル事例研究②（取消料を巡るトラブル他）	
第14回目	観光ビジネスの現場③（廃墟の島から世界遺産へ・軍艦島の物語他）	
第15回目	全体のまとめ	
事前・事後学習	事前：授業Scheduleに合わせて、教科書の当該部分を一読してから授業に臨む事 事後：授業での不明点は、次回授業までに調べ理解しておく事	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば、積極的に質問したり、自分の意見を述べることなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たす者。
レポート	10%	課題を出したら、期限内に提出を原則とする。（第8回目実施予定） S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。 S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	各テーマの理解度・学習度が高いこと。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
観光学基礎（JTB総合研究所）を参考図書とする。		
履修上の留意点・ルール		
3分の1以上欠席した場合は、理由の如何を問わず単位認定しない。 遅刻厳禁、私語は慎むこと。授業途中での無断退出禁止。携帯電話の使用・飲食は厳禁。		